

## いきいき広場

### わらび座研究生の皆さん

昭和25年に当地に旗揚げし、再来年には満70年を迎える劇団わらび座で、昭和37年から続いている研究生制度に、今年も新たな若者が入門しました。

全国各地から親元を離れて、劇団員になるため2年間の訓練に入ります。

講師の方々のもと、歌や踊り、演劇楽器の演奏など多岐にわたる指導を受け、卒業後、採用となれば劇団員としての活動がいよいよスタートします。日本、世界に通用する劇団員として活躍できるよう日夜努力しています。今年度は4名ですが、これまでに40

0名以上の劇団員を輩出しています。当仙北市では若者が多く流出し人口減少が激しい中、劇団わらび座のおかげでいくらかでも市民が増加することは非常に喜ばしい出来事です。今後も劇団わらび座の活躍で、日本全国、世界の人人々にも、当仙北市の魅力などを発信し、研究生としてより多くの若者が当地に来て頂ければ幸いです。今後のわらび座の更なる発展に期待します。

(小木田隆記)



■左2人が2年生、右2人が1年生

## 控室

### タブレット本格的始動

議員になって初めての議会で、「暫時休憩、資料配布します。進行上、渡る紙が多くなるが初議会なのでご了解いただきたい。」と、当時の佐藤議長の発言を思い出す。

昨年12月議会から、議員、議事事務局と議会に参与する職員にタブレット端末が貸与

され、紙による資料と並行で使ってきたが、今回9月定例議会からタブレットのみとなり、デジタル世代に追い付けと意欲的な同僚議員を目標にした。議会に関するすべての事案がタブレットに搭載され、A4版の画面に議案や予算書、関連する資料を導き出し画面で同時に見ることの対応に苦慮したりしながらであったが、「使つて慣れる」と手応えを感じた。掲載された内容によく目を通し、関連性のある事案、予算等を拾い出し、

議論を深めるために、これまでに以上に事前の準備が必要と思った。便利な機器を操作するのは人間であり、発展させていくのも人間である。

メモを取り、自ら整理し記憶の中に留め置き、見落としのないようにと緊張したが、特に、9月定例議会は、決算関連資料が多く分厚い資料持参が常だったが、今回はありがたかった。

(平岡裕子記)

## 令和元年9月議会 人事案件(敬称略)

### ◎人権擁護委員

黒澤 福子 (65歳)  
角館町山谷川崎黒沢149番地

千葉 悟見 (65歳)  
角館町蘭田新田86番地

田口 陽三 (66歳)  
田沢湖生保内字黒沢197番地

角館町蘭田新田86番地

## 編集後記

W杯ラグビーが初めて日本で開催され、大いに盛りあがっている。ルールが多少わからなくても、選手同士がぶつかり合う迫力が十分伝わってくる。ラグビーの精神は、「ワンフォア・オール」「オールフォア・ワン」で、一人はみんなのために、みんなは一人のためにと訳される。試合後は、「ノーサイド」敵・味方ではなく共に健闘をたたえ合うという、英国発祥の紳士のスポーツである。

私たちも、みんなのために何ができるか、市民一人一人のために力を尽くし、議論を終えた後は、ノーサイドの精神で政策を進めていきたいものである。

(熊谷一夫記)